

新興感染症対応実践型訓練(令和7年2月14日開催)

新たな感染症の予防や感染症危機に対応できる人材の養成、平時からの医療機関・庁内外の関係機関との連携強化、保健所体制の整備を図るため、市内で新型インフルエンザ疑い患者が初めて発生したことを想定した実践的な訓練を実施しました。

訓練の概要

実施日時:令和7年2月14日(金曜日) 14時から16時45分

実施場所:福島市保健福祉センター

参加人数:56名

(福島県との協定に基づき入院受入れ対応を行う医療機関17名、福島県衛生研究所等関係機関9名、保健所等職員30名)

訓練の内容

1.講演「新型コロナウイルス感染症の思案」

講師:東北大学大学院 客員教授 金光敬二氏



コロナの経験から、患者のプライバシーと個人情報保護の重要性、平時からの準備として多様な主体と連携した実践的訓練や職員への感染対策教育の必要性等について講演いただきました。

2. 実動訓練「患者発生の探知から適切な医療の提供までの流れをロールプレイ」



患者から保健所に電話相談が入る場面から、感染症指定医療機関へ入院する場面まで、動画も併用しながらロールプレイしました。

また、福島県衛生研究所より診察時の検体採取・検体容器搬送のポイントについて説明をしていただきました。

3. 情報共有・意見交換



流行初期における患者発生時のそれぞれの機関の役割について、情報共有・意見交換をしました。患者発生時の調整窓口を明確にしておくこと、入院を受入れる病床の確保体制・人員配置等について各医療機関での平時からの準備についても情報共有されました。

今後の課題

新型コロナウイルス感染症対応の経験を踏まえ、新興感染症発生時に向け、医療機関・行政機関等との新たな情報共有、連携体制の仕組みを構築していく必要があります。

次年度以降も、様々な流行時期を想定した訓練を実施し、発生時に備えた体制整備に努めていきます。